

# THEY+TIMES

YOKOO TADANORI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART NEWSLETTER  
横尾忠則現代美術館ニュース

24 | 25





# HYOGO PREFECTURAL YOKOO EMERGENCY HOSPITAL

兵庫県立横尾救急病院展  
2020.2.1 – 8.30

SPECIAL



2020年2月1日に開幕した本展は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて3月4日に公開を中止し、その後の緊急事態宣言の発令と解除を経て、当初の会期を延長し、6月2日に再開しました。この間の目まぐるしい動きは、本誌のレポートをご参照頂くとして、ここでは奇しくも新型コロナウイルスを巡る状況と「タイムリー」な関係を結ぶことになった本展の経緯についてレポートしたいと思います。

本展の構想は2018年に遡ります。多彩な病歴の持ち主である横尾さんは、その頃も頻繁に検査や診察、入退院を繰り返していました。横尾さんは自他共に認める「病院好き」ですが、その根底には自身の肉体に対する強い関心があります。「肉体はウソをつかない。だからぼくは生活においても創造においても、肉体の求めるものに耳を貸し、生理の赴くままに従うよう努めている」と語るように、肉体への信頼は、観念や言葉よりも感性や直観を重視する横尾さんのアーティストとしてのあり方と深く結びついているのです。こうした横尾さんの肉体と創作活動の関係に焦点を当てるため、本展では美術館全体を「病院」=肉体に向き合うための場所と仮定し、展覧会を構成することにしました。

準備に取り組んでいた2019年夏頃、県内の病院施設が統廃合されるという情報があり、多くの方々の協力のもと、不要となった器具類を展覧会のディスプレイとして譲って頂けることになりました。統合された2つの病院（現・兵庫県立丹波医療センター）は、いずれも長年地域の医療を支えてきた歴史ある病院で、そこで実際に使用されていたベッドや点滴台、待合椅子や外来案内板など、病院の空気を色濃く纏った器具が展覧会に加わることで、美術館の「病院化」が一気に加速することになりました。

慌ただしい準備作業を経て、2月1日に開幕した本展ですが、その頃から新型コロナウイルスの国内感染者数は増加の一途を辿り、開幕から約1か月のうちに当館も臨時休館を余儀なくされました。切迫する医療現場の様子が連日のように報道される中、「病院」と銘打った本展

は閉院せざるを得ないという、何とも皮肉な事態となってしまったのです。緊急事態宣言解除後の6月2日、会期を延長して展覧会が再開した時には、私たちを取り巻く環境は大きく変化していました。あたりまえに享受していた日常が突然失われ、非日常だと思われた生活が“新しい生活様式”として日常に取って代わりつつありました。未知のウイルスと対峙しなくてはならない状況の中で病気や肉体に対する意識は先鋭化し、誰もが自分や他の身体について考えざるを得ない日々を送ることになりました。そうした状況下で再開した本展は、多くの来場者に「タイムリー」な展覧会として受け止められることになったのです。一方、横尾さんは5月20日から自身のTwitter上で、マスクのイメージを展開したヴィジュアル・メッセージ“With Corona”を発信していました。マスクは今回のコロナ禍の象徴ともいべき存在ですが、じつは1月31日に行われた本展開会式において、横尾さんの発案により、スタッフを含めた出席者全員がマスクを装着して式に参列するというパフォーマンスが行われていたのです。当時は異様に映ったその光景が、数か月もしないうちにありふれた日常の一部となってしまったことは、まさに予言的と言うほかありません。展覧会再開後の6月19日、横尾さんの意向により一部展示が変更され、会場のいたる所に“With Corona”が出現することになりました。日々発信され続ける“With Corona”は、その後も日を追うごとに会場に増殖し、しだいに空間そのものを感染・侵食するかのように拡がっていました。日常と非日常、現実と虚構が入り乱れたその様子は、横尾さんの作品世界を表象するかのようでもあります。これまで数々の病気を経験してきた横尾さんは、一方で病気を単に排除すべき悪とは捉えず、その働きに想像をめぐらせ、創作のためのエネルギーに転化させてきました。コロナ禍の前後を通して開催された本展は、こうした横尾さんのあり方を改めて示す場となったと言えるでしょう。

(HY)



3



4

# REPORT



1. 展示室が入院病棟に
2. 開会式（2020年1月31日）の壇上から見た客席
3. 「眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科」絵の中の五感
4. 「産婦人科」展示替え（2020年6月19日）により新設
5. 展示室が入院病棟に

5

コロナ禍を予言したような展覧会は、メディアでも大きく取り上げられました

コロナ後の世界を描いたアトリエの新作も特別に公開されました



「新美の巨人たち」

(テレビ東京にて2020年8月1日放映)では、横尾さんのアトリエと美術館を結び、シシド・カフカさんが横尾さんの死生観と創造の関係に迫りました。

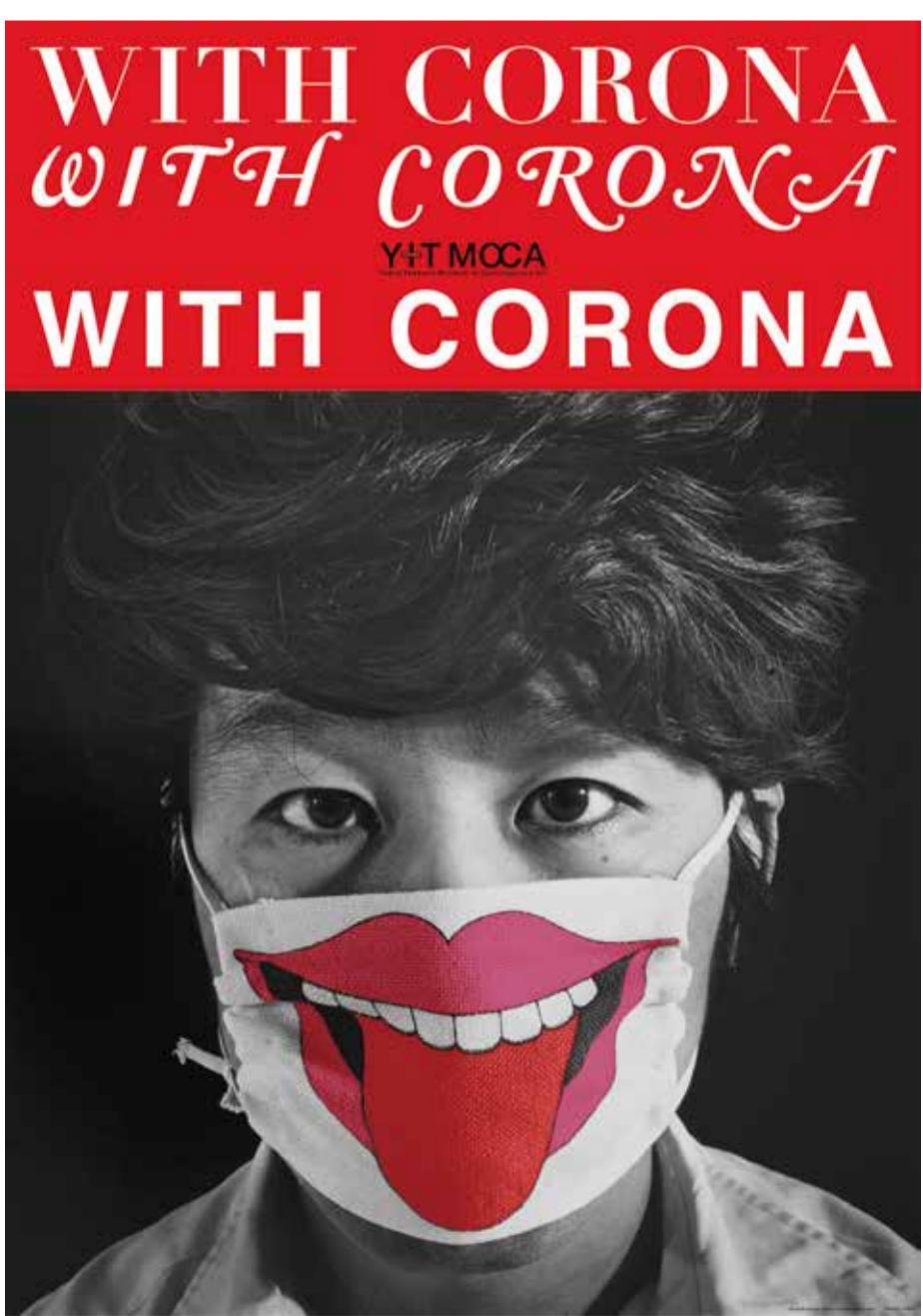
(HM)



# WITH CORONA

TOPICS  
1

横尾さんがSNSで  
発信し続けているマスクアート



本物のマスクも完成  
現実と非現実を繋ぐアイテムになりました

「WITH CORONA」を  
ポスターとしても発信しました

横尾さんの「WITH CORONA」はこちらから→



5月下旬から横尾さんが親しい人々にメールで送るとともに、SNSで発信し続けている「WITH CORONA」。このマスク・アートの元になっているのは、1968年に写真家の石元泰博さんが撮影したポートレイトで横尾さんが着用している「舌出しマスク」です。マスクは自作の登場人物や身近な人々の写真に次々とコラージュされ、X線写真や報道写真、新聞記事へと広がります。さらに、警鐘のアイコンのような、大きく開けた口のモチーフが、自作を侵食していきます。新型コロナウイルスとの共存を意味する「WITH CORONA」ですが、拡大・継続していく現状とあいまって不気味さとユーモアが同居するリアルなメッセージ・アートになっています。当館では、コロナ禍での休館中もSNSでメッセージを発し続けた横尾さんとのコラボレーションポスター「WITH CORONA」を制作しました。全国の美術館などで出会えます。

(HM)



# EXHIBITION

TOPICS  
2



## Yokoo Tadanori's Skull Festival

### (幻の) 横尾忠則の髑髏まつり

※「横尾忠則の髑髏まつり」は、2020年5月30日（土）—8月30日（日）の開催に向けて準備をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、開催中止となりました。

「『病院』の次が『髑髏』になってしまふのですが……」少し遠慮がちに伝えると、「それはずいぶんシャレが効いているね」と、横尾さんは笑いながら了承。展覧会タイトルも早々に「横尾忠則の髑髏まつり」と決定し、準備を始めたのは2019年の夏でした。「展覧会ができるほど髑髏は描いていないと思う」という作家本人の記憶を裏切るボリュームの髑髏・骸骨に関する作品リストを用意してアトリエを訪れたのは11月。絵画やドローイング、グラフィック作品だけでも50点以上、装幀やレコードジャケット、商品を含めると100点を超える髑髏と骸骨が並ぶリストはまさに「髑髏まつり」です。展覧会は当館の空間にあわせて2部構成としました。第1章では、反復され記号化された「死」のモチーフに注目。髑髏や骸骨のほか、首吊り縄や他界した同級生の写真、三島由紀夫の肖像など、横尾さん独自の「死」の暗号もあわせて展示し、死生観の形成を辿ることにしました。第2章は、ヨコオワールドに遍在する髑髏たちが、此岸と彼岸を繋ぐ旅に誘うインスタレーション。両岸の間には舟が漂い、艶かしい女性や探偵小説の怪奇的な場面、時にはそれを覗く少年たちもが重層的に描かれています。そんな怪しい空間に同居するのは食器や衣類を飾る無数の骸骨たち……。生ける者と死せる者が集う祝祭的な風景は、横尾さんが想いを馳せる「死」の向こう側なのかもしれません。「死」を見つめながら「生」を描き続ける横尾さんならではの挑発的な作品群を、いつかご紹介できる日がくることを願っています。（HM）

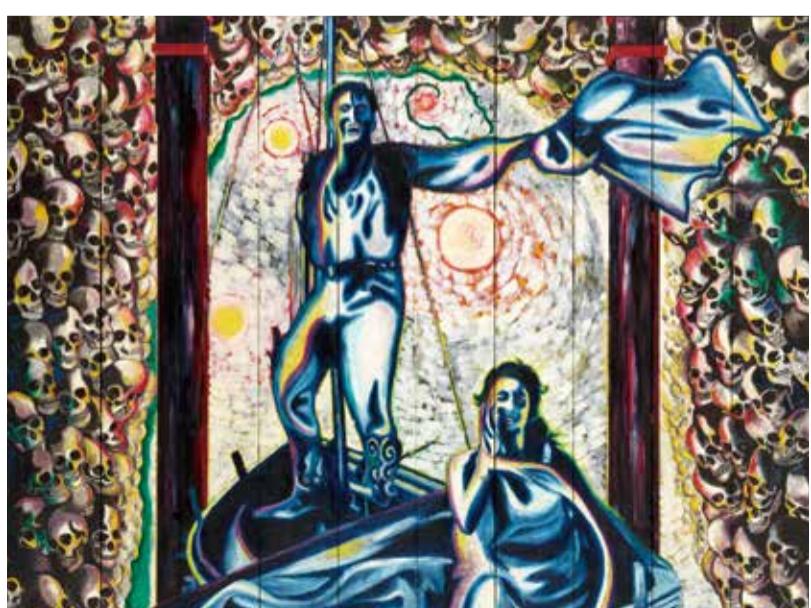


1



3

1. 「横尾忠則の髑髏まつり」ポスター 2020年 デザイン：横尾忠則
2. 《Experimental Report》2008年 作家蔵
3. 《髑髏靴》作家蔵
4. 《死者の洞窟》1985年頃 当館蔵



4

### 髑髏シャツできました！

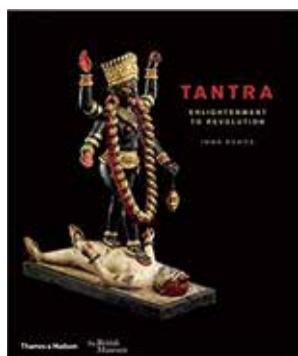
展覧会の開幕に合わせて製作されていた髑髏グッズ「横尾忠則×YOIYOIGION KOIKUCHI SHIRT」がお目見えしました。お祭りの定番衣装である鯉口シャツに横尾さんデザインの髑髏柄。気分は「髑髏まつり」です。（HM）



横尾忠則×YOIYOIGION KOIKUCHI 頭蓋骨柄の鯉口シャツは2種類

## 大英博物館「タントラ」展に出品

2020.9.24 – 2021.1.24



「Tantra:  
Enlightenment to Revolution」  
カタログ

大英博物館で開催予定の展覧会「タントラ」(Tantra: enlightenment to revolution) に1974年制作の横尾さんの版画作品《聖シャンバラ》が出品されています。

(HM)

## 横尾忠則の緊急事態宣言

2020.9.19 – 12.20

新型コロナウイルスにより、我々の日常は以前とは一変してしまいました。感染症が世界規模で蔓延する様はまるで映画のようにも見え、時に虚構と現実との境界線が曖昧になったような感覚に襲われます。コロナ禍が起ころるはるか以前から、横尾さんは、虚実が交錯するかのような緊迫した状況を繰り返し描いてきました。今回は、横尾さんの絵画における、そうした危機的状況の表現に注目しました。またコロナ禍に反応するかたちで、横尾さんは現在、様々なビジュアルにマスクや口腔のイメージをコラージュする作品《WITH CORONA》をウェブ上で展開しています。本展ではそれらを展示空間各所に散りばめるようなインсталレーションもあわせて行いました。(YA)



ハンブルク美術工芸博物館「The Poster. 200 Years of Art and History」展示風景

## ハンブルク美術工芸博物館で2本の展覧会

2020.2.28 – 9.20 / 2020.5.7 – 8.30

ハンブルク美術工芸博物館での「The Poster. 200 Years of Art and History」(2月28日–9月20日)に、横尾さんのグラフィック作品が出品されました。同館は、ニューヨーク近代美術館に続き、1973年に個展が開催された場所で、横尾さんのグラフィック作品を多数所蔵。本展では1960年代の作品を中心に6点が選ばれています。また「Copy and Paste. Repetition in Japanese Imagery」(5月7日–8月30日)にも横尾さんのグラフィック作品が出品されました。(HM)



「古典×現代2020—時空を超える日本のアート」展会場風景 国立新美術館 2020年  
蕭白に挑む横尾さんの新作(撮影:上野則宏)

## 「古典×現代2020—時空を超える日本のアート」

2020.6.24 – 8.24

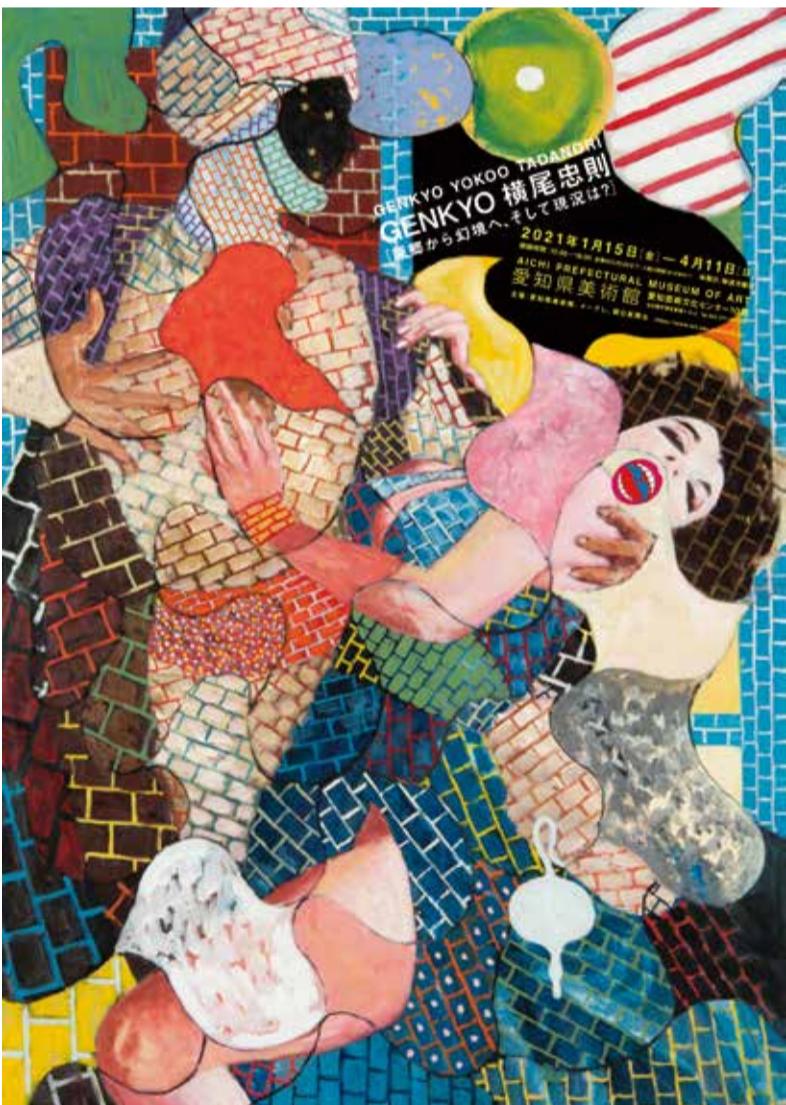
日本の古典的名品と現代に活躍する作家の作品を組み合わせた展覧会「古典×現代2020—時空を超える日本のアート」(国立新美術館)で横尾さんが新作を発表。「現代」の日本を代表する作家8名が、日本の「古典」と時空を超えて対話する本展のために、横尾さんは敬愛する曾我蕭白への破天荒なオマージュ作品を制作しました。なんと、蕭白の《寒山拾得図》で2人が手にしていた箒は掃除機に、絵典はトイレットペーパーになっています。(HM)

## State of Emergency Declaration



横尾忠則の緊急事態宣言 2020年9月19日(土)–12月20日(日) 横尾忠則現代美術館 Y+T MOCA

ポスター・デザイン:横尾忠則



## 個展「GENKYO 横尾忠則」

2021.1.15 – 4.11

2021年より個展「GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は?」が愛知県美術館を皮切りに巡回します。お楽しみに。(HM)

## 「シリーズ現代の作家 横尾忠則」 2020.7.1 – 9.13

町田市立国際版画美術館では常設展示室を360°のパノラマに見立てて横尾さんの初期の版画を一堂に展示。2017年の「HANGA JUNGLE」展以来、展示室がヨコオワールドに染まりました。(HM)



「トキオン」アートプロジェクト第一弾としてのGUCCIとのコラボレーションでヨコオワールドに染まったGUCCIの外観



## GUCCIとコラボ!

東京渋谷に期間限定ヨコオワールドが出現。「グッチ 渋谷 ミヤシタパーク」の外壁が横尾さんのアートワークで彩られています。おなじみのGGパターンを背景に描かれた女性は《女性と紳士靴》(2017年)のモチーフ。さらに、当館開催の「横尾忠則 HANGA JUNGLE」展のメインビジュアルも取り込まれています。伝統あるファッションブランドGUCCIへの大胆な挑戦です。 (HM)



## イッセイミヤケとの新プロジェクト始動

1977年から横尾さんがパリコレクションの招待状デザインを続けていた衣服ブランド「イッセイミヤケ」の会社から発表された新プロジェクト「TADANORI YOKOO ISSEY MIYAKE」がスタートしました。第1弾は横尾さんの作品をわずか7色の糸で一枚の布の中に再構築したブルゾン8種。その高度な技術と糸による表現ならではの面白さをぜひ実物でご確認ください。 (HM)



## CD・DVDアートワーク

Artwork by Tadanori Yokoo ©2020 ISSEY MIYAKE INC.



『タマ、帰つておいで』(講談社)  
618

ミュージシャンGLAYのシングル『G4・2020』のアートワークを横尾さんが手がけました。実は1998年、1999年にもGLAYのポスターを制作している横尾さん。既に20年のお付き合いだからこそユーモアあふれるデザインです。また、蓮沼執太フィル『フルフォニー』には、蓮沼さんの希望で1970年代に横尾さんが描いた風景画「日本原景旅行シリーズ」より《大沼と駒ヶ丘》。半世紀を超えて作家自身が加えた裏面の遊び心が秀逸です。 (HM)



CA805 × YOKOO Self Portrait (Image by UGG)

## UGGとコラボ

UGG®の12x12スニーカーコレクションに横尾さんの作品が登場。横尾さんの顔が見え隠れするポップなスニーカーは《Self-portrait》を切り取ったデザイン。そして《W Wonderland II》のモチーフを落とし込んだカラフルな3種類のスニーカーと《Blue Wonderland》を大きく用了いたTシャツ、ショートパンツ、パーカーがUGG®発祥の地カリフォルニアの空気を運んでくれます。 (HM)



TOPICS  
3

## YOKOO TODAY

## 横尾さん、東京都名誉都民に

横尾さんが2020年度の東京都名誉都民に選ばされました。照明デザイナーの石井幹子さん、江戸切子職人の瀧澤利夫さんとともに顕彰式に出席した横尾さんは、芸術の想像力でコロナという危機的状況を乗り越えたい、ネガティブなパワーをポジティブに変えたいと語りました。自身の「WITH CORONA」シリーズに早くからテレビ画面の小池百合子東京都知事を登場させていた横尾さん。現実のツーショットは「WITH CORONA」のパフォーマンスのようです。

(HM)



## 病気のご利益



『病気のご利益』(ポプラ社)

## 『病気のご利益』出版

華麗な病歴をユーモアあふれるエッセイで綴った『病の神様』(文藝春秋)の出版から14年、新たな病気・怪我の体験や、病気と芸術との新しい関係など、書き下ろしを加えて再編集された『病気のご利益』(ポプラ社)が出版されました。1冊まるごと病気の話ですが、なぜか元気になる本。当館の展覧会カタログ『兵庫県立横尾救急病院展』とあわせてお楽しみください。

(HM)

## 『横尾忠則 創作の秘宝日記』出版

週刊読書人にて連載中の日記「日常の向こう側 ぼくの内側」をまとめた『横尾忠則 創作の秘宝日記』が9月に文藝春秋から出版されました。横尾さんの日記が書籍化されるのは2016年の『千夜一夜日記』(日本経済新聞出版社)以来約4年ぶり。今回は1498日分の特大ボリュームで、夢とうつつが入り混じる横尾さんの日常のあれこれを見ることができます。

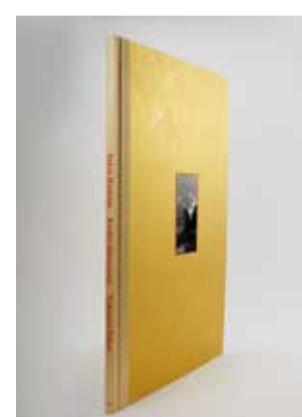
(HY)



## 三島由紀夫写真集『男の死』

1970年、撮影を終えていながら、その衝撃的な現実の死のために出版が見送られた三島由紀夫写真集『男の死』(篠山紀信撮影)が、9月にアメリカのリツトオリ社から刊行され、これを横尾さんが再構成した日本版が11月に出版されました。三島さんに請われ、企画当初は横尾さんも被写体となる予定だったこの写真集。50年を経てブックデザインという形での共演となりました。

(HM)

『OTOKO NO SHI』  
(CCC アートラボ株式会社)瀬戸内寂聴さんとの往復書簡は70回、  
小説「原郷の森」は連載20回目へ！

『週刊朝日』に連載中の瀬戸内寂聴さんとの往復書簡「老親友のナイショ文」、お二人の手紙のやりとりはついに70回へ。第49回では、なんと瀬戸内さんが「画家宣言」！ 画家としては先輩である横尾さんは「独立、独歩、独学、独断、独身で画境一筋に邁進して下さい」と応援メッセージを送りますが、それも束の間、第61回では瀬戸内さんが階段から転倒し、顔に大怪我を負ったことが明らかに。痣だらけの顔にしょげる瀬戸内さんに、横尾さんからは「今の顔を自画像として描いて下さい」という慰め(?)の言葉も。『文學界』掲載の小説「原郷の森」ももうすぐ連載20回目を迎えます。舞台は主人公Yの前に突如現れる深い森。そこでは場所、時間、生死の垣根を越えた様々な人物が登場し、会話を交わします。三島由紀夫や瀧澤龍彦など生前に横尾さんと交流のあった文学者から、キリコ、ピカビアといった芸術家、さらにはローマ法王やキリスト、ブッダ、宇宙人まで！ 「原郷」は近年の横尾作品における重要なキーワードであり、1月からは愛知県美術館を皮切りに「GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？」展の巡回がスタート。小説とあわせてますます目が離せません。

(HY)

## 新連載がスタート！

## 「横尾忠則の我流点睛」(時事通信社)と「夢で逢いましょう」(『ひととき』)

8月、9月と立て続けに横尾さんの新連載がスタートしました。「横尾忠則の我流点睛」は、横尾さんが毎回1点の自作を取り上げて創作のエピソードなどを語るエッセイ。時事通信社を通して全国の地方新聞社へ配信されます。「夢で逢いましょう」は東海道・山陽新幹線のグリーン車内で配布される旅の月刊誌『ひととき』での不定期連載。横尾さんのインスピレーションの源でもある「夢」について、多彩な記憶が語られます。

(HY)

## 新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルスの影響で、当館は3月4日～6月1日まで休館しました（途中3月17日に再開したものの、感染症の広がりを受けて3月20日から再度休館となりました）。ちょうど2月1日から5月10日まで「兵庫県立横尾救急病院展」を開催予定でしたが、開幕から約1ヶ月で休館になってしまいました。続いて5月30日から、本来なら「横尾忠則の髑髏まつり」を開催するはずでしたが、準備作業が進められる状況ではなかったため中止し、かわりに6月2日の再オープン以降は「救急病院展」を8月30日まで会期延長して開催することとなりました。再開にあたっては、エントランスで手指の消毒と検温を行うコーナーを設け、万一来館者のなかから感染者が出た場合にお知らせできるよう、氏名や連絡先などを記入いただくスペースも設けました。開催中の「救急病院展」にちなんで用紙は「問診票」とし、白衣を着用したスタッフが誘導にあたったこともあり、まるで本物の病院のような雰囲気となりました。また受付やショップには飛沫防止のためアクリル板を設置し、館内各所にソーシャル・ディスタンスを守るための足跡サインを掲出。接触感染を媒介する恐れのある閲覧図書やチラシ類は撤去し、所蔵品の検索端末も使用停止としました。本稿執筆時点では緊急事態宣言は解除され、新たな生活スタイルのもとで経済活動も徐々に再開されてきていますが、感染の第2波、第3波のリスクが払拭されたわけではなく、完全に以前のような企画展に戻すのはなかなか難しいかもしれません。コロナをめぐる状況を見定めつつ、今後の方向性を探っていきたいと思います。（YA）

展覧会ポスターもソーシャル・ディスタンシング

お客様には「問診票」の記入をお願いしました



手指の消毒および検温コーナー



《方舟に持ち込む一冊の本》1996年 作家蔵（当館寄託）

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.24・25

2021年1月31日発行

編集 平林恵（横尾忠則現代美術館 学芸員）

編集補助 尾崎幸恵（同学芸員補助）

執筆 YA:山本淳夫（同館長補佐兼学芸課長）／HM:平林恵／HY:林優（同学芸員）

デザイン 相島大地（ヨコオズ・サーラス）

印刷 岡村印刷工業株式会社

発行 横尾忠則現代美術館

**Yokoo Tadanori  
Museum of  
Contemporary Art**

**Y+T  
MOCA**  
横尾忠則現代美術館

### 次回展予告

#### Curators in Panic – 横尾忠則展 学芸員危機一髪 2021.3.27 – 8.22

2021年から2022年にかけて、国内外で横尾さんの個展が開催され、当館にある横尾作品も引っ張りだこ。喜ばしい反面、約140点もの作品が消える事態に学芸員はパニックです。そこで、3名の学芸員が過去に企画した展覧会を振り返り、収蔵品の中からそれぞれの「推し作品」を勝手におすすめすることにしました。日ごろの調査の中で発見したこと、展覧会にまつわるエピソード、とにかく好きな作品……。選抜メンバーを逃した「うちの子」たちへの愛情を語ります。開幕と同時にコロナ禍に見舞われた「兵庫県立横尾救急病院展」、その最中に企画された「横尾忠則の緊急事態宣言」展に続き、混乱の中での美術館活動を映し出す試みです。

(HM)

### 臨時休館のお知らせ

当館は2020年12月22日（火）～2021年3月26日（金）まで、4階の改修工事等のため、臨時休館させていただきます。なお、次の展覧会は2021年3月27日（土）からを予定しています。ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願ひいたします

### 開館時間

10:00-18:00 (入場は17:30前まで)

※新型コロナウイルス感染症対策のため、

当面の間、夜間開館を中止します

### 休館日

月曜日（祝日の場合は翌平日）、

年末年始、メンテナンス休館

〒657-0837

兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

Tel: 078-855-5607 (総合案内)

Fax: 078-863-3888

[www.ytmoca.jp](http://www.ytmoca.jp)

### Y+Tメールマガジン登録

[www.ytmoca.jp/news/index.html](http://www.ytmoca.jp/news/index.html)



# INFORMATION